

News Letter

No. 10

子どもの世紀

秋冬号

公益財団法人 小児医学研究振興財団

2013年10月1日

研究助成金 海外留学フェローシップ 優秀論文アワード 締切は12月です!!



ジャパンワクチン 研究助成金

1 研究助成金

1件200万円以内

2 対象研究

- ① 感染症の疫学と診断に関する研究
- ② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
- ③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
- ④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究

3 応募資格

- ① 日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者
 - 平成25年12月31日現在、40歳未満
 - 同一研究に対して過去に他から研究助成金を受けていないこと
- ② 上記の他、当財団が必要と認めた者



ジャパンワクチン 海外留学フェローシップ

1 海外留学奨学金

1件350万円以内

2 対象研究

- ① 感染症の疫学と診断に関する研究
- ② 感染症予防ワクチンの開発に関する研究
- ③ 感染症予防ワクチンの有効性・安全性に関する研究
- ④ 感染症予防ワクチンの国際的ネットワークに関する研究

3 応募資格

原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において一定期間(原則1年以内)研究に従事できる者で、次の条件を満たしている者とする

- ① わが国の大学、医療機関、研究機関に所属する日本国籍を有する小児科医師及びワクチンに関する研究者
- ② 平成25年12月31日現在、40歳未満
- ③ 具体的な研究又は研修計画を提示できること
- ④ 同一研究に対して過去に他から海外留学奨学金を受けていないこと
- ⑤ 研究終了後6ヶ月以内に研究報告書の提出ができること

4 申請手続

下記当財団のURLから申請書をダウンロードし、書類を送付
<http://www.jfpedres.or.jp/>

5 選考結果発表

平成26年3月中に当財団ホームページ上で発表

6 応募締切日

平成25年12月2日(月)必着

問い合わせ先及び提出先

公益財団法人大児医学研究振興財団事務局

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

Tel:03-5818-2601 FAX:03-5818-2602

e-mail:shouni-iken@jfpedres.or.jp

News Letter

ご挨拶 ~ 平成25年6月の理事会において柳澤正義理事が理事長に再任されました ~



理事長
柳澤 正義

日頃、(公財)小児医学研究振興財団に対し、格別のご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。私ども理事9名は、本年6月、平成25年度定時評議員会において、全員再任の議決をいただき、理事の互選により、前期に引き続き、私が理事長、松尾宣武理事と衛藤義勝理事が常務理事を務めることになりました。微力ながら、故鴨下重彦前理事長の敷かれた路線を守り、さらに発展させるべく努力する所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

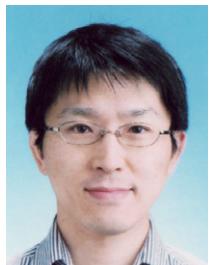
ご承知のように、当財団は、平成20年4月に設立され、平成23年4月には公益財団法人への移行認定を受けることができました。この間、小児医学研究助成、海外留学フェローシップ、優秀論文表彰等の事業を行って参りましたが、本年度は新たな事業として、予防接種をテーマに市民公開講座を開催し、お陰さまでたいへん盛会でした。また、今までの日本イーライリリー株式会社のご支援による留学助成と論文表彰に加えて、ジャパンワクチン株式会社のご支援により、感染症の疫学と診断、予防ワクチンに関する研究に対して、研究助成と留学助成が開始される運びとなりました。多くの若手小児科医、小児医学研究者の応募をお待ちしております。

このような事業を今後さらに発展させていくには、財政面の強化を図る必要があり、小児医学医療関係者、企業、

また一般の方々のご協力が不可欠です。公益財団法人としてご寄付に対し税制上の優遇措置を受けることができますので、ぜひともご寄付をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。また、小児科医の皆様には賛助会員として財団を支えて下さるようお願いいたします。今までと同様、(公社)日本小児科学会とは密に連携して事業を進めて参ります。

なお、事務局長として財団運営を擔って下さった村松宣孝氏が8月末日をもって退任され、後任として稻葉博士氏が就任されました。村松氏の永年のご貢献に深く感謝するとともに、稻葉新事務局長と老田事務局次長による事務局体制をよろしくお願ひいたします。

留学体験記



長崎大学病院 小児科
伊達木 澄人

Johns Hopkins大学留学報告

私は、イーライリリー海外留学フェローシップのご支援を頂き、2010年から2年間、Johns Hopkins大学に留学しました。同大学は、アメリカ東海岸 ボルチモアに位置しています。歴史が古く、臨床、研究ともに米国を代表する大学の一つです。この病院のレジデント、指導医が編集したハリエット・トレーン・ハンドブックは、日本語訳も出版されており、小児科領域の方であれば、一度は目にしたことがあるのではないでしょうか。

私は、Pediatric Endocrinology部門のSally Radovick教授のもと、博士研究員として、小児内分泌と共に複合型下垂体機能低下症の発生機序に関する研究に従事しました。内分泌に関わる基礎的、臨床的研究を幅広く扱う研究室の中で、多くの研究者や小児科医と議論し、そして、知り合いとなることができたことは、大きな財産となりました。また、日本各地から集まった留学生の方々や現地に腰をすえて研究責任者として頑張っている日本人研究者と交流できたことは大きな刺激となりました。帰国後、学会や研究会等で遠征する際、留学先で知り合つた友人達と酒を酌み交わし、近況や思い出話で盛り上がる楽しみのひとつとなっています。

今回の留学では、研究だけではなく、週に1度のクリニカルカンファレンスにも出席させていただき、臨床の現場を見せていただく機会もありました。また、個人的な話になりますが、留学期間中、妻の妊娠、次女の出産を経験することもできました。日米の妊娠・新生児管理、小児医療体制の違いを体感することができたという点で、小児科医として、たいへん貴重な経験ができたと感じています。

最後になりますが、今回の留学をサポートして頂いた小児医学研究振興財団に心より御礼申し上げますと共に、貴財団の益々の御発展をお祈り申し上げます。

Sally Radovick教授



市民公開講座ご報告 ~予防接種 受けなかったらどうなるの?!~

平成25年7月7日(日)、国立成育医療研究センター講堂において、予防接種に関する市民公開講座を開催いたしました。乳幼児の保護者だけでなく、医療従事者、保育園関係者など多方面からの参加者があり、満員の会場では、熱心にメモを取る姿が見受けられました。

来場者アンケートから

- 新しい情報も含め、プロフェッショナルな先生方の講演でとても参考になりました。
- 適切な時期に予防接種を受けることは重要だと思いました。
- ネットなどで情報が溢れているが、どれが正しいか判断できず、今回のような専門医の先生方のお話が聞けてとてもよかったです。



イーライリリー 海外留学フェローシップ【発達障害に関する研究】

募集要項

- 1) 奨 学 金 : 1件180万円以内、総額360万円
- 2) 対象研究 : 発達障害に関する基礎的および臨床的研究
- 3) 応募資格 :
原則として受賞後1年以内に出国し、海外の研究機関等において一定期間(原則6ヶ月以内)研究に従事できるもので、次の条件を満たしている者とする
 - ① わが国の大学、医療機関、研究機関に所属する日本国籍を有する小児科医師及び小児医療研究者

- ② 平成25年12月31日時現在、40歳未満
- ③ 具体的な研究又は研修計画を提示できること
- ④ 研究終了後6ヶ月以内に研究報告書の提出ができること
※過去の受賞者の申請は不可。

応募方法

当財団の定める交付申請書(財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛送付すること。

締切:平成25年12月2日(月)必着

※感染症及び感染症予防ワクチンに関するフェローシップの募集要項は表紙をご覧ください。

研究助成金(小児医学領域全般)

募集要項

- 1) 助成金額 : 1件200万円以内
- 2) 助成対象研究 :
 - ① 新しい感染症や急性疾患診断・治療に関する研究
 - ② 小児の難治疾患、慢性疾患の本態解明と治療に関する研究
 - ③ 生活習慣病の予防に関する研究
 - ④ 遺伝子治療など高度先進的医療開発のための基礎的研究
 - ⑤ いじめ、虐待、拒食、不登校など子どもの心のケアや心身症に関する研究
 - ⑥ 生命倫理など社会的問題に関する研究
 - ⑦ 国際医療協力の基盤となる母子保健に関する研究
 - ⑧ その他、子どもの健康に関する研究
- 3) 助成対象者 :
 - ① 小児科領域の基礎的研究、臨床研究等に従事し、日本国籍を有する医師・研究者(平成25年12月31日現在、50歳未満)
 - ② 助成対象研究課題をテーマとする研究会、シンポジウムの開催者
 - ③ 上記助成対象者の他に当財団が必要と認めた者

応募方法

当財団の定める交付申請書(財団URLよりダウンロード)に必要事項を記入し、下記宛送付すること。

締切:平成25年12月2日(月)必着

※感染症・感染症予防ワクチンに関する研究助成金募集要項は表紙をご覧ください。

優秀論文アワード

選考要項

アワードの概要

- ① 下記機関誌に掲載された優れた研究論文を表彰する
- ② 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が行い、1件30万、総計4件120万円を筆頭筆者へ授与する
- ③ 平成25年12月31日現在で、40歳未満の執筆者を対象とする

選考対象誌(平成25年1月~12月発行)

- ① 日本小児科学会機関誌
「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
 - ②-1 日本小児神経学会機関誌「脳と発達」、「B & D」から1編
 - ③-2 日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1編
- ※②-1、③-2の優秀論文はイーライリリアワードとして表彰する。

選考結果発表

平成26年3月中に当財団ホームページ上で発表。平成26年第117回日本小児科学会学術集会において表彰する。



御 礼

賛助会員及び多くの協賛企業・寄付者の皆様のご支援により、若手小児科医師・研究者へのアワード授与、研究・海外留学を支援することができました。
また、今年度は市民公開講座を開催するなど、小児の保健と福祉の向上に努めております。
皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

当財団の賛助会費は、確定申告の際、所得税控除または税額控除を受けられます。

賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司 俊二	安次嶺 馨裕	小穴 老田	慎一信	河 西	和子 敬世	四方 あかね	谷澤 玉井	眞 隆邦	祐 英吉	横山 吉代	義正	脇口
熱田 鮎沢	大賀 川義夫	大澤 真洋	正二子	神崎 菊地	紀昭	重松 柴田	田村 千田	敬伸	利秀	宮代 宮	和吉	和田
新垣 荒川	太田 正治	木節	一信	貴田	晋陽	志水 澄	田長	三郎	義樹	脇島	吉岡	渡辺
有賀 飯塚	太田 孝秀	雄	正二	中本	岡節	清水 志	長塚	伸一	雄	上瀬	三康	渡辺
五十嵐 池本	太田 秀臣	育	二	木野 木楠	幸子	下条 下	田辻	一郎	要宣	田松	吉田	渡部
博幸	太田 正耕	稔	二	原工	直樹	下村 重	土屋 堤	慶隆	孝男	福山	吉田	信
正浩	太田 純策	聰	二	藤保	敏子	下村 里	鶴澤	幸夫	彦祥	福永	芳野	
達郎	太田 正耕	浩	一	池込	嘉	白井 白	寺門	達哉	福友	藤井		
忍	岡田 愚	晶	満	久倉	湖継	石川 白	寺寺	也	昭宏	藤枝		
幸明	岡田 岡部	ひろ	一郎	小池	聰	幡延 杉	寺田	雅司	廣彦	岡木		
板橋	岡本 小川	ひら	文一	泉	嘉	末杉 杉	本戸	伴弘子	彦枝	藤野		
家	沖	み	一郎	小泉	英	木木	戸戸	浩一	利友	藤村		
市田	奥山 貞	治	満	河野	英	鈴木 鈴	戸戸	一裕	浩明	藤井		
逸見	眞紀子	知	一郎	河野	亮	木木	曳舟	正裕	一裕	枝		
伊藤	絢子	子	文一	香	輝	須磨 須	平家	英創	一裕	眞利		
伊藤	小栗	慈	一郎	神	一	清野 開	別所	修一	一裕	貞		
伊藤	小田	欣	一郎	幸	二	潤一	シゲリ	三雄子	一裕	利友		
伊藤	小堂	彌	一郎	山	潤	佳	坂井	夫郎	一裕	英一		
伊藤	小野	厚	一郎	山	洋	秀	井川	英一	一裕	英一		
伊藤	緒林	誠	一郎	福	ひ	秀哲	川川	一郎	一裕	英一		
伊藤	賀川	治	一郎	彥	三	智健	木井	一郎	一裕	英一		
伊藤	加賀	美	一郎	浩	三	健	石尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	勝	弘	一郎	彰	浩	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	由子	秀	一郎	敦	彰	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	弘	敏	一郎	雄	彰	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	元	力	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	内田	正志	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	内田	祐	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	内山	聖	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
伊藤	畠須	彦	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
江口	尚彦	厚彦	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
衛藤	義勝	隆	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
衛藤	義勝	隆	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		
遠藤	文夫	芳郎	一郎	英	英	一郎	松尾	一郎	一裕	英一		

賛助会員(法人)

※敬称略 五十音順

- エーザイ株式会社
MSD株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
杏林製薬株式会社
第一三共株式会社
田辺三菱製薬株式会社
帝人ファーマ 株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ
和光堂株式会社

協賛企業

※敬称略 五十音順

- アステラス製薬株式会社
一般財団法人
阪大微生物病研究会
MSD株式会社
塩野義製薬株式会社
ジャパンワクチン株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本ケミカルリサーチ株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボノルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社

寄付者(個人)

※敬称略

南沢 享

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団

JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B
TEL (03) 5818-2601/FAX (03) 5818-2602
e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

ホームページ

<http://www.jfpedres.or.jp/>

「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任にお書きいただいたものです。

編集後記

ご挨拶



事務局長
稻葉 博士

9月から村松前局長の後任として勤務することとなりました稻葉でございます。今日、少子社会における子どもの健全育成は、持続可能な社会を発展していく上におきまして国家的重要課題となっております。

このような中、小児の保健と福祉の向上に寄与することを目的に設立されました公益財団法人小児医学研究振興財団の管理運営業務に携わる重責をひしひしと感じております。

微力ですが、多くの関係機関及び大勢の皆様のご協力とご支援を賜わりまして、当財団の発展と事業の推進に努めてまいる所存でございまして、よろしくご指導の程お願いいたします。